



特定非営利活動法人 インフォメーションギャップバスター  
〒222-0001 神奈川県横浜市港北区榑町 3-7-15-456  
E-mail: staff@infogapbuster.org  
URL : <https://www.infogapbuster.org>

2021年3月17日

厚生労働副大臣 山本 博司 殿

特定非営利活動法人 インフォメーションギャップバスター  
理事長 伊藤 芳浩  
家族プロジェクト担当理事 藤木 和子



### (お願い)

時下、ますますご清祥のことと存じます。日頃より、私ども特定非営利活動法人インフォメーションギャップバスター(以下、IGB)が取り組んでおりますコミュニケーションバリアフリー化推進活動にご理解を頂き、厚くお礼申し上げます。

さて、ヤングケアラー支援に向けた厚生労働省と文部科学省の共同によるプロジェクトチーム (PT) の立ち上げにつきまして、大きな期待を抱くとともに、支援策につきまして下記の通り要望いたします。

#### 記

1. 「ヤングケアラー」がひとりも取り残されることなく支援につながることを要望いたします。特にヤングケアラー支援が語られる際に、「きょうだい」や「聴覚障害がある家族のいる子どもたち」が忘れられがちですが、他の障害種・病気等を含めまして、谷間のない支援を要望いたします。
2. ヤングケアラー当事者（成人した経験者を含む）、団体との連携、そして、当事者や団体によるピアサポート・セルフヘルプを含めた支援活動の公的事業化を要望いたします。
3. 支援の入口として、学校、地域、自治体、社協等でヤングケアラーを発見しやすい体制作り、また、適切な相談に結びつきやすい体制作りを要望いたします。
4. 18歳以上の若者ケアラー支援も要望いたします。

#### 【提案】

1. 支援策をおまとめになる際には、多様な当事者、支援団体・有識者へのヒアリングをお願いいたします。
2. オンライン等を活用して、個々のヤングケアラーが自己のニーズにマッチした適切な相談先、ロールモデルに結びつくための支援及び受け皿となるヤングケアラー支援者の養成をお願いいたします。
3. 政府広報や研修事業などを介して、国民、特にヤングケアラー当事者への情報提供と相談へのエンパワメント、周囲の大人への啓発、そして、専門家である療育・教育、福祉、医療関係者関係者の理解を推進していただきますようお願いいたします。



特定非営利活動法人 インフォメーションギャップバスター  
〒222-0001 神奈川県横浜市港北区榑町 3-7-15-456  
E-mail: staff@infogapbuster.org  
URL : <https://www.infogapbuster.org>

## 【要望の背景】

当団体は聴覚障害当事者・家族・支援者を中心に構成されており、聴覚障害のあるきょうだい、親をもつ立場による「聞こえないきょうだいをもつ SODA ソーダの会」、聴覚障害のある親をもつ人で構成される「J-CODA」とも連携しております。

先日、日本初の埼玉県ケアラー条例の支援計画案についてパブリックコメントの募集（2021年2月4日締め切り）がありましたが、支援計画案では「きょうだい」や「聴覚障害」について触れていませんでした。しかし、非常に重要な課題です。

「家族をみんなでカンガエルーシンポジウム」（2021年1月30日、上記2団体等と共催）では、聴覚障害のある息子を育てている内閣府大臣政務官の今井絵理子氏、聴覚障害のある姉・弟と育った大学院生の丸田健太郎氏、聴覚障害のある両親をもつライターの五十嵐大氏が登壇し、関係者を含め428名もの参加がありました。ヤングケアラーを経験した丸田氏、五十嵐氏からは、幼少期の周囲の大人の無理解、支援者（“通訳”）を空気のように求められたこと、そして、学校の先生からの声掛け、同じ立場の仲間に出会い救われた経験などが語られました。参加者全員で支援の必要性とともに、支援の入口と多様な背景やニーズにマッチした適切な支援の重要性を認識しました。当団体の取り組みが、今後のヤングケアラー支援に少しでもお役に立てましたら幸いです。

## 【参考】

厚労科研「小児慢性特定疾病児童等自立支援事業の発展に資する研究」

「きょうだい児支援取組事例集」において全国の44のきょうだい支援を行う団体、6つの病院の取り組みが紹介 <https://m.ehime-u.ac.jp/shouman/result/>

家族をみんなでカンガエルーシンポジウム報告（当団体 HP）

<https://www.infogapbuster.org/?p=4228>